

事務事業名		内水面漁業増殖支援事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画登載事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業		
政策体系	政策名	0 1 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間			
	施策名	0 1 地域活力を担う水産業の振興		区分			
	基本事業名	0 1 持続可能な漁業の推進		単年度繰返			
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入			
所属	部課名	農林水産部水産課		【開始年度】			
	課長名	新沼 秀樹		平成28 年度～			
	係名	振興係	電話	0192-27-3111			
	担当者	佐藤 直司	内線	377			
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分			
<p>(内水面漁業増殖支援事業補助金)</p> <p>近年、サケの回帰率が低下しており、ふ化・放流などの増殖事業の経費が漁協経営に大きな負担となっている。特に、定置網漁業を行っていない内水面漁協にとって負担は大きく、事業の継続が困難な状況となっている。</p> <p>このことから、当該漁協のサケのふ化放流に係る経費に対して、予算の範囲内で2分の1以内の補助金を交付している。</p> <p>(サケ種卵確保緊急対策支援補助金)</p> <p>県さけます増殖協会、漁協、県、市町村等では、ふ化場運営の収支適正化と種苗確保を図るため、令和4年度から県内ふ化場の再編に係る集約化に取り組んでいる。しかし、親魚の河川遡上が少なく、種卵を十分に確保できなかったことから、北海道等から種卵を移入し、種苗放流計画の達成を目指すこととなった。これを受けて、関係市町村では、漁協の種卵移入経費に支援をすることとした。当市:補助率1/2以内</p> <p>事務事業の流れ: 補助金交付申請受付→補助金交付決定→補助金請求→支払い</p>				D 補助金等			
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)			
				総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金	
					財源内訳	都道府県支出金	
						地方債	
						その他	
						一般財源	
						事業費計(A)	0
				人件費	正規職員従事人数		
					延べ業務時間		
					人件費計(B)	0	
					トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称	単位
・内水面漁業増殖支援事業補助金:盛川漁協に補助金を交付した。 ・サケ種卵確保緊急対策支援補助金:盛川漁協、綾里漁協、越喜来漁協、吉浜漁協に補助金を交付した。	ア 補助金交付件数	件
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ	
内水面漁業増殖支援事業補助金のみ実施予定。	ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・内水面漁業増殖支援事業補助金: 定置漁業権の免許を受けておらず、サケのふ化放流事業を実施する漁業協同組合 ・サケ種卵確保緊急対策支援補助金: 県外産種卵を購入した漁業協同組合	名称	単位
	カ 漁業協同組合	組合
	キ 漁業協同組合	組合
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	ク	
毎年、安定してふ化放流事業が行われる	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
	名称	単位
④ 結果(基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか)	サ 支援した漁協から放流されたサケ稚魚の数	万尾
サケ資源の維持・増大が図られる	シ	
	ス	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)	
	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0	0		
		一般財源	千円	2,000	2,000	2,811	2,000	2,000	2,000	
		事業費計(A)	千円	2,000	2,000	2,811	2,000	2,000	2,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時間	16	16	32	16	16	16	
		人件費計(B)	千円	64	64	128	64	64	64	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	2,064	2,064	2,939	2,064	2,064	2,064	
⑤活動指標	ア	件	1	1	5	1	1	1		
	イ									
	ウ									
⑥対象指標	カ	組合	1	1	1	1	1	1		
	キ	組合	—	—	4	—	—	—		
	ク									
	ク									
⑦成果指標	サ	万尾	680	107	1,021	570	570	570		
	シ									
	ス									

事務事業ID	1689	事務事業名	内水面漁業増殖支援事業
--------	------	-------	-------------

**(3) 事務事業の環境変化・住民意見等**

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？  
 近年、サケの回帰率が低下しており、ふ化・放流などの増殖事業の経費が漁協経営に大きな負担となっている。特に、定置網漁業を行っていない内水面漁協にとって、その増殖事業の負担は大きく、事業の継続が困難な状況となっていたことから、漁協からの要望を受けて、平成28年度から本事業を開始した。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？  
 近年、地球温暖化による海水温の上昇で、サケの回帰率が低迷している。水揚げが少ない状況でのふ化事業の継続は、漁協への負担が大きくなっている。  
 令和4年度から、県さけます増殖協会、漁協、県、市町村等では、県内のふ化場再編に係る集約化に取り組んでおり、ふ化場運営の収支の適正化と種苗確保に努めている。気仙地区においては、県南部地区協議会を設立し、令和4年度は盛川ふ化場を拠点に種苗の生産を行なった。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？  
 サケの水揚げは、市内経済に与える影響が大きいことから、ふ化放流事業への支援は必要との声が議員等から寄せられている。  
 令和4年度も、サケの水揚げ量は、海域、河川ともにわずかで、記録的な大不漁となっており、漁協では、ふ化場再編に係る集約化について、引き続き、協議していく必要があるとの認識である。

**2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <b>▽ 理由・内容</b> サケ資源の維持・増大のためのふ化事業を行う漁協への支援は、漁業資源の回復及び拡大に結びつく。 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <b>▽ 理由・内容</b> サケ資源の確保は、漁業者をはじめ、魚市場や流通・加工業者など、幅広い分野の市内経済に寄与するため、行政の関与は妥当と言える。 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である <b>▽ 理由・内容</b> 定置網での収益がない中で、ふ化事業の実施は、漁協経営に負担があることから、対象は妥当と言える。 県内でふ化場の再編を進める中で、県さけます増殖協会として県外産種卵を移入することになったため、関係漁協を対象としたことは妥当である。 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない <b>▽ 理由・内容</b> 放流数は、県内で増殖事業を行う漁協等で組織する岩手県さけます増殖協会が、親魚の回帰状況やふ化場の施設規模等を考慮して調整しているため、現状での向上余地はない。 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある <b>▽ 理由・内容</b> サケの水揚げが低迷している中で、本事業の廃止・休止は、漁協への影響が大きく、増殖事業の継続が危ぶまれる。 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <b>▽ 理由・内容</b> 予算の範囲内で補助しており、これ以上の削減余地はない。 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <b>▽ 理由・内容</b> 補助金交付事務に係る最低限の人件費となっており、削減余地はない。 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である <b>▽ 理由・内容</b> 定置漁での収益がない漁協及び増殖事業を行う市内の漁協を補助対象としており、また、当該漁協も相応の負担をしていることから、受益機械・費用負担は公平・公正である。 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

**3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)**

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
1 現状維持  ※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	サケ資源の維持・増大のためには必要な事業であり、回帰状況を見ながら、継続していく。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					

**4 課長等意見**

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	県内さけふ化場の再編計画案が示されており、拠点ふ化場となる盛川漁協の運営に影響(収支改善等)が及ぶ可能性があり、令和4年度以降の補助事業の実施の可否等について慎重に検討していく必要がある。 また、近年の秋サケの不漁に伴い、緊急的に県外から移入卵を購入し、その経費に対して補助金を交付した。今後も継続的に種苗確保に努める必要がある。